

「子供の命に向き合っ」 = 津波被害大川小で校長研修—宮城

2020/11/04 19:02



© 時事通信 提供 大川小で行われた新任校長研修で、写真を示しながら説明する遺族の元教員、佐藤敏郎さん = 4日午前、宮城県石巻市

東日本大震災の津波により児童と教職員計84人が犠牲となった宮城県石巻市立大川小学校の被災校舎で4日、県教育委員会が新任学校長の研修を行った。県教委主催の被災地視察研修は初めてで、今春に校長となった90人が参加。講師を務めた遺族が「子供の命に丁寧に向き合っ」と呼び掛けた。

被災校舎では震災遺構として保存するための整備工事が進められている。研修の冒頭、遺族らにとって祭壇代わりとなっている校門前で、参加者全員が手を合わせた。

講師は教員経験のある遺族2人が務めた。震災時に中学校教員だった「大川伝承の会」共同代表の佐藤敏郎さん(57)は、「想像の中で、ここを走って行くのは自分の学校の子供だと思ってください」と校長らに語り掛け、「シンプルに、丁寧に命に向き合っているか。できていない状況があるなら、そこから変えていってほしい」と求めた。



© 時事通信 提供 大川小で行われた研修で新任校長に語り掛ける遺族の平塚真一郎さん。自身も中学校校長を務める = 4日午前、宮城県石巻市

もう一人の講師、平塚真一郎さん(54)は現役の中学校校長としての立場から、「正解がないものに対して、学校はエネルギーを割けていない現状がある」と語った。終了後には、震災から10年を前に実現した視察研修について、「一歩目が踏み出せたことは、未来の命を守ることにつながるのであれば意味がある」と感想を述べた。

参加した石巻市立河北中の福田光一校長(54)は「大川小を目の前にして話を聞くことで、心の奥底に響く何かを感じた」と語った。